

## 第5回尼崎市環境基本計画策定部会 議事概要

日時 : 令和5年7月18日(木) 午前10時00分から午前11時45分まで  
場所 : 尼崎市役所中館8階 8-2会議室 (Web会議システム併用)  
出席委員 : 6人  
傍聴者 : なし

### ○開会

- ・定足数の確認
- ・資料確認

### ○議事

#### 議題1 尼崎市環境基本計画(案)について

事務局 :

—資料1~4について説明—

部会長 :

ただ今、説明のあった内容について、質問、意見などをお願いします。全体を通じたもので結構です。

委員 :

環境問題に関心がない市民について、あまがさき環境オープンカレッジを中心とした取組ではなく、多様な主体と連携しながらアプローチしていくという説明があった部分に関することについてです。あまがさき環境オープンカレッジでも、環境団体ミーティングという活動を4年ほど前から、尼崎市内のいろいろな環境団体と連携して、取り組んでいます。その活動は、あまがさき環境オープンカレッジが中心ではなく、どちらかという環境団体の主要メンバーを中心として、取り組んでいます。そのような活動が実りをつくってきます。

また、「環境」を幅広く捉えて、非常に幅広く、多様な活動を行っています。例として、寄席で落語の話を使いながら環境活動に取り組めるように、違う目的を持った人たちが集まることのできるイベントに取り組んでいます。我々としてはその意義を捉えていただき、施策にある表記はなかなかよいと思っています。

環境に関心がない人たちにも環境の輪を広げていく活動には時間がかかりますが、そのような形であまがさき環境オープンカレッジとして取り組もうとしています。以上です。

部会長：

ありがとうございます。資料 1 の 10 ページにある主な取組の記載について、補足説明と  
いうことでいいですか。

委員：

はい。その辺りの取組はあまがさき環境オープンカレッジ一辺倒のイメージがあります。  
そうではなくて、あまがさき環境オープンカレッジの枠組みを使いながら、広げていこうと  
している環境創造課の活動を理解してもらえるとありがたいと思っています。

部会長：

例えば資料 2 の 10 ページの②主な取組にある中点 2 つ目でそのようなことが書かれてい  
ます。市内の環境団体のスキルアップなど、環境団体ミーティングを開催したとだけ書かれ  
ていますが、今のご意見の意図を中心としながら、様々な方々に対して、直接ではなくても  
環境に対して広く取り組んでいることについて、補足する趣旨の発言でいいですか。

委員：

はい。

部会長：

ありがとうございます。他はどうですか。

委員：

計画のほぼ最終に近い内容になっていると思います。大変お疲れさまです。今更あまり大  
きなことは言わないほうがよいと思います。前回の部会での意見については非常に適切に  
反映していただいていると思いますが、例えば生物多様性への影響の視点が弱いのではな  
いかという意見がありました。そこではいろいろと修正されていますが、例えば今回の目指  
すべき環境像の説明、あるいは第 5 章の計画の推進の説明では、環境負荷の低減という表  
現が多いままになっています。つまり、第 3 章のシーソーの図でいうところの、被害を減ら  
すことが中心になるのは当然です。ただし、目指す環境像で片側の自然を増やすことにつ  
いて、これまでの環境負荷を軽減していく視点に加え、資源エネルギーをどのように消費し  
ているかという視点があり、それから自然の回復の視点を少し目指す環境像に入れること  
が必要ではないでしょうか。また、同様に第 5 章の計画の推進でも、環境負荷の低減に努め  
ることが非常に多いですが、それにプラス最近の動向として、ネーチャーポジティブの  
動向も少し入れてみてはどうかという印象を持ちました。ただし、既に最終段階なので無理  
に入れるということではありません。

あとはとても細かなことです。第4章でそれぞれ指標があり目標が掲げられていますが、指標によって目標の年が令和12年、15年、9年となっています。目標4の指標に至っては目標が令和3年になっているものもあり、よく分かりません。多分、何か根拠があると思いますが、その辺りが気になりました。

最後です。これは余計なことと言わないほうがよいかもしれませんが、第2章の循環型社会に関する動きについてです。国際的な動きでダボス会議のことを書くのもいいですが、4年前に大阪で開催されたG20でのブルーオーシャンビジョンがあると思います。どうせ書くのであればそれを入れるほうがいいと思いました。ただし、プラスチックのことを書くとプラスチック類の分別をしますかという話にもなるので、どうなのかと思いつつ申し上げました。

部会長：

ありがとうございます。事務局、どうですか。

事務局：

1つ目のネーチャーポジティブのような視点を、目指す環境像に入れてはどうかというご指摘についてです。入れること自体は可能だと思っています。ただし一方で、尼崎市全域が都市部で山がない中で、自然を回復させることまでを言うべきかどうかという部分があります。都市部が消費地であることを加味した場合には、基本的には経済活動において自然に優しいものを買うことなどです。もちろん生き物に配慮した緑地や水辺の整備は施策として掲げているので、それは土木部局と一緒に考えていくところにはなるとは思いますが、尼崎の自然を過去の状態に戻すことはイメージとして湧きにくいと思うので、今回は載せていません。ただし今、言っていたところについて、確かになぜそこだけないのかということはあるので、検討したいと思います。

もう1つです。指標の目標年度に関するご指摘についてです。こちらは誤植というか記載ミスです。令和15年が計画の目標年度なので、基本的には目標年度は令和15年度です。一部に令和9年度となっているものがありますが、これは市の最上位計画である総合計画に関する目標と整合を取っているためです。令和9年度がいったんの区切りになっており、そこまでは内部でも確認が取れております。逆にそれ以上の先の話を書きにくいことがあり、令和9年度にしています。中間見直しのときにまた新しく先のものが出るので、この辺りは適宜入れ替える形で進めていきたいと思っています。

この他に第2章の国内外の動向で、ごみ、廃棄物に関するところですが、G20のブルーオーシャンの記載がないというご指摘がありました。こちらは国際的な動きのところ書き加えたいと思います。ありがとうございます。

部会長：

いいですか。

委員：

はい。ありがとうございました。

部会長：

私が気になったことについてです。1 番目のネーチャーポジティブや本文の資料 1 で、12 ページの環境像を表す図のところですか。今回はバランスを元に戻すという考え方から、サーキュラーに変えようという趣旨の環境像という気がしています。12 ページの図は、前にバランスが悪くなって続々と廃棄物が増えてきたから、リサイクルをして元に戻していこうというものです。今回は新しい循環を生み出そうという話になっています。サーキュラーエコノミーという考え方については、先ほどのキーワードでも説明すると話されていたので、非常に重要だと思います。少なくとも取組の考え方のイメージは、バランスを元に戻すという図ではなくて、このようになっていたものを循環に変えるということです。2 つを対比させて、これからこれに変えるぐらいの中身を文章で書いたような気がするのです、そのような図にしてはどうかという感じがしました。

どうですか。インターネットでよくあるサーキュラーエコノミーの図をチャットで送ろうとしましたが、なぜか動かなくて止まっています。少し待ってください。

事務局：

画面で共有できますか。

部会長：

画面共有をします。見えますか。

- インターネット上でサーキュラーエコノミーの概念図を表示 -

事務局：

はい。

部会長：

これまでは原料があって、生産、消費して廃棄物が発生するというものでしたが、リサイクルの過程を挟むことで、廃棄物の発生を抑えています。このような状況を正しい消費をしていくことでサーキュラーエコノミーに変えていくというものです。資料 1 の 12 ページの文章ではこれからこのような社会に変えるというニュアンスで書かれているので、シーソーでバランスの絵として表現するよりも、このような表現もよい気がしました。また、現状

と将来を分けて書くと一つ一つの図が書きやすくなります。まとめるとなかなか難しくなってしまう。そのような印象を持ちました。このような図はサーキュラーエコノミーの図を検索すると、たくさん出てくる有名な図です。

本当はこの図の中で、尼崎の生物多様性やネーチャーポジティブが達成されると書くことができればいいです。少なくとも尼崎市生物多様性地域戦略策定部会で議論しているのは、尼崎に自然がないことをネガティブに考えずに、今ある貴重で残り少ない北部の農地や工業地域や新しく開発で生まれていく緑を、しっかりと大切にするというアピールすることなので、そのような書き方をすることです。書かないというよりは、生物多様性をしっかりと大切にするという書き方もあると思いました。以上です。

他はどうですか。

委員：

いくつか伺いたいことがあります。今、議論になっているシーソーのような図があります。資料 1 と資料 2 の概要版ではシーソーの左右に乗っているものが異なりますが、どちらが正しいですか。

事務局：

冒頭で説明しましたが、配付資料の送付後に資料 1 の内容に環境像に関する部分の差し替えをお願いしておりました。資料 2 の概要版については反映が間に合っておりませんので、資料 1 の内容に基づきご意見をいただければと思います。

委員：

わかりました。もう一度、画面共有のところを見せてもらえますか。先ほど、尼崎は自然がないということでしたが、尼崎の市民や事業者の方ができることを考えたときに、差し替える前の図では「選ぶ」、「利用」と書いてあり、これはエシカル消費につながると思います。つまり、事業者や消費者の行動によって自然を守ることは非常に注目されているところなので、この図を説明する文章に書いてもらおうと、市民、事業者として何をするかが見えてくると思いました。今からどの程度できるか分かりませんが、自分たちの行動で守る、廃棄物をサーキュラーエコノミーにしていく、それから自然環境を増やしていくことにつながる、その辺りのことをここに書いてもらおうとよいと思ったのが 1 点です。

これも説明があったのかもしれませんが。概要版の説明はこれからだと思いますが、概要版はどのような方を対象に考えていますか。まさに計画の概要としてまとめたものが概要版ですか。

事務局：

そうです。厚い冊子では市側が市民の皆さまに説明するのも難しいので、一般の市民の皆

さまに、環境学習の講座などで説明する際に、活用できるといいと思っています。

委員：

分かりました。拝見して、これは大人の市民が対象と感じました。例えば、先ほどのブルーオーシャンに関しては、事業者の方にとってはとても影響があることで、こういった対象に対して何か冊子を作成するという事も考えられます。あるいは子どもへの環境教育で、環境基本計画を学ぶきっかけになるような場合です。そうなると、多分、現在の概要版より簡略でもいいと思います。教科書よりも、さらにわが尼崎と考えてもらえるようなものです。せっかくなのでそのような資料があるといいです。予算のこともあると思いますが、これは大人の市民向けだと思ったので、そのような計画があるのかについて聞きたかったです。

最後です。先ほどから出ている指標の表があります。どこを見てもらってもいいですが、とても見にくくありませんか。指標の数字を少し大きくすること、あるいはフォントを少し考えることです。同じ大きさが続くととても分かりにくいです。一覧ではないところでもそうです。目標年と指標そのものの大きさを変えたほうが見やすいと思ったので、検討してください。以上です。

部会長：

ありがとうございます。事務局、どうですか。

事務局：

先ほどの目指す環境像のところに書いていた図自体は、先ほど部会長からもご指摘をいただいておりますので、もう少し考えたいと思っています。

ブルーオーシャンに関しては、事業者にも影響ある話が、しっかりと事業者にも伝わるようにするというご指摘だと思いますが、今回の概要版では関連キーワードのところで、求められていることなどを、キーワード自体を説明することで知っていただければと考えております。先ほどもご指摘がありましたが、そもそも国内外の動向に書けていないので、そこは対応したいと思います。

子どもたちも学べるようなものが必要ではないかという指摘についてです。環境教育や学習を担当している係があります。環境教育プログラムにおいて、公害や地球温暖化のようにパートごとに取り組んでいますが、その中にうまく溶け込ませることができるのかなどを踏まえて検討してみます。

最後に意見をいただいていた、概要の指標が見にくい部分についてです。こちらはデザイン関係の対応で見やすさを改善できる場所もあると思います。そこはもう一度、検討します。ありがとうございます。

委員：

ありがとうございました。尼崎は公害のイメージが強いと思いますが、実はより先にいつていることを、市民や事業者の方に分かっていたけるとよいと思いました。お願いします。

事務局：

分かりました。ありがとうございます。

部会長：

ありがとうございます。次のご意見をお願いします。

委員：

1つ目は、概要版の2ページです。先ほども指摘があったと思いますが、対象者に関することです。市民が読むには難しい言葉がとても多い印象があります。特にグリーン経済のところに書いてある ESG 投資、サーキュラーエコノミー、ネーチャーポジティブ経済などは難しい感じがあるので、最初のところは少し平易な言葉で表現する工夫も要ると思っています。この他に、下線部を引いている箇所は後ろに関連ワードで説明しています。そうだとすれば、下線部は後ろの関連ワードで説明しているので見てくださいというように、分かるほうがよいです。

2つ目は循環型社会に関して書かれていることです。全体的なことを書かれて、その後に尼崎市について書かれているのでよいと思いますが、少し違和感があるのは、尼崎では老朽化が進んでいるごみ処理施設の更新を控えており、新たな施設で処理できるごみ量に減らすという書き方をされています。本来は削減目標としてのごみ量があって、それに基づきごみ処理施設のサイズが決まるという話になるので、ごみ処理施設の容量がこれなので、これに向けて頑張るという書き方は違和感があります。

3つ目は安全で快適な生活環境のところですか。これは日本語の問題ですが、尼崎では環境基準は改善傾向にありと書いてありますが、基準は改善しないので環境指標だと思います。3ページにある尼崎の現状のところ、指標は悪化傾向のものがないと記載しています。

4つ目は先ほどから話が出ている12ページ目の部分ですが、基準と目標はありますが、前回や中間の値が分かると、どのように推移して目標に対してどれぐらいなのかが分かると思います。数字が多くなるので、先ほどの意見の見やすさや見にくさの問題はあると思いますが、一定の進展があった部分に関して、見てすぐに分かるものがあるとよいと思いました。

最後は5ページで、関連ワードにあるパリ協定の右側の絵です。パリ協定の段階の1.5度は、努力目標という表現になっていたと思います。2021年のCOP26のときには追求するという文言が変わっています。表現として努力目標であることは変わらないと思いますが、努力すべきと言われると、どうなのかなと思います。これも表現の問題なので非常に些末なことですが。気になった点を申し上げました。以上です。

部会長：

事務局、どうですか。

事務局：

1つ目の概要版の2ページに難しい専門用語が並んでいるところについて、まずは簡単な言葉で言った後に専門的なことを書くこと、関連ワードにしっかりと説明があるのを示すことについて、何らかの対応は可能だと思うので、難しい言葉を残すのであれば説明があることを示して、きれいに説明できるようにしたいと思います。

2つ目の目標2の循環型社会におけるごみ処理施設の更新に向けてのところですか。方針ありきの話なので、目標値があって、それに向かって取り組んでいく表現にすべきという指摘について、こちらも一度考えてみます。

3つ目について、目標4の環境基準の達成、改善状況のところ言葉の使い方がおかしいことについては、こちらももう一度確認して、説明がしっかりとるようにします。

4つ目のパリ協定の関連ワードで、図のところは努力目標ではなくて、現在は基本的に1.5度が目標で、そちらを目指している動きの表現だと分かりにくいという指摘だと思います。それもパリ協定で書いている文章のところは補足するか、温度計の表現を変えるなどの対応はできると思うので、検討します。

最後に指標のところですか。基準と現状と目標や中間目標などを示すべきではないかと指摘いただいた分です。こちらは概要版と本編の両方とも、その対応にすべきという意見でいいですか。

委員：

基準と現状と目標がどうかについてです。3つあるほうが分かりやすいのではないかとこの意見です。

事務局：

数字があると思うので、それは対応できると思います。現在はどの辺りにいるのかが分かるように修正を検討します。

部会長：

ごみ処理については、ごみ処理施設の計画を作るときも、そのような議論の進め方をしていました。施設の容量から考えるのではなくて、目指すべきところからどこまで施設を圧縮できるかを考えていただいていた気がします。

関連して私が表現について気になったことです。概要版の3ページにある視点と現状が、資料1の本編と順番が入れ替わっています。



事務局：

はい。

部会長：

ここで上にある視点が、資料 1 では目指す環境像の説明になっていますが、少し構成が変わっています。先ほどご指摘があったように、社会状況なども含めてこのような前提の現状があって、このようなことをする、目標にするという説明の仕方にも関わるので確認してください。

あとは後半が見にくいことについて、言葉の難しさもありますが、ビジュアル的な問題もあります。とにかくタイトル以外のフォントの大きさがほぼ一緒だと、どこを見てよいのかわからなくなります。方針、施策のフォントだけを 5 ポイントぐらい上げるだけでも全く違います。一度、海外の環境計画のエグゼクティブサマリーを見てもらうと、よく分かります。大事なところはフォントの大きさが 4 倍ぐらいになっています。ここだけは見てほしいところがほぼ絵のようになっている感じです。それだけで特に概要版は見やすくなる気がしたので参考にしてください。

他はどうですか。

委員：

説明、ありがとうございます。私からは何点かあります。

まず、1 点目についてです。概要版に関してですが、関連ワードなどを入れていただいて、前回よりも分かりやすくなったと思っています。可能であれば、資料 1 の計画の資料編に用語説明という形で関連ワードを入れていただくと、本文のほうも分かりやすくなると思います。それが 1 点目です。

2 点目です。前回から追加していただいた文言だと思いますが、資料 1 の 18 ページです。方針 1 の施策アにある箇条書きの 3 つ目です。尼崎の動植物や生態系に関する「樹法」を把握すると書かれていて、私が見慣れない言葉だったので調べてみましたが、樹木をかく方法というような用語が出てきましたが、それで合っているのかを聞きたいというのが 2 点目です。

3 点目です。もしかするとこれも以前に議論が出ていたかもしれませんが、22 ページの目標 5 の指標です。目標として現状より改善することが書かれていますが、この指標を見たときに値が上がるのが改善なのか、あるいは下がるのが改善なのかについて、われわれは分かると思いますが、一般の方は分かりにくいかもしれないと思いました。言葉で数値を挙げていくことについて、環境負荷を減らしつつ市内総生産を増やしていくことが大事であることが、文言として書かれているとよいと思いました。

もう 1 点あります。これまでにブルーオーシャンなど、さまざまな国内外の動向がある

という議論がありました。計画書の中で現時点はどのような議論が行われているのかを書くことは大事だと思います。ただし、この計画書を発行した以後も、同様の一般向けあるいは事業者向けの新たな用語が出てくると思います。既に計画書には書くことはできませんが、尼崎市のウェブサイトで補足していくことについてです。適切な言葉が思い浮かびませんが、補足していくとか新たな用語があるという用語集のような形で、ウェブサイトに公開していくのもありだと思いました。以上です。

部会長：

ありがとうございます。事務局、どうですか。

事務局：

1 点目のご指摘にあった概要版に書いている関連ワードも、計画の本編の資料編などで反映させたほうがよいのではないかというご指摘についてです。こちらはどこかに載せることができる場所があると思いますので、対応したいと思います。

2 点目の「樹法」についてですが、これは誤植です。申し訳ありません。本来は「情報」が正しいです。生き物に関する情報にしっかりと対応していくことを書きたかったのが、こちらの入力ミスで樹法という言葉になってしまいました。

3 点目の指標の値を増やすのがよいのか、減らすのがよいのか、どちらの方向を向いていくのがよいのかについてです。例えば、表の右に主要な「方向性」という欄を設けるなどし、矢印を加えるなどでどちらを向いていくのかは分かるようにしたいと思います。

4 点目の専門用語が次々と増えていく中で、結局はどこでも説明がされないのではないかという指摘についてです。ホームページで掲載するという方法もありますし、5 年おきに中間見直しを行うので、世の中が動いたときに何か対応できることがあると思います。新しい概念やキーワードを皆さんに伝えることは考えていきたいと思います。

委員：

ありがとうございます。

部会長：

他はどうですか。

委員：

先ほどの 12 ページにある指標のところですか。私が申し上げたことについて、誤解があったようです。ここに基準と書いていますが、基本的には現状のことですか。

事務局：

今は令和 5 年度の実績がないので、令和 4 年度を示しておりますが、基本的には現状を基準としたいと考えています。できるだけ直近のものを考えています。ただし、別の計画で基準が定められてしまっているものがあるので、それだと何パーセント削減とすると分かりにくくなるので、別にあるものはそれを基準にする方法で進めています。

委員：

基準という言葉だと、達成すべき水準というイメージがありますが、これは実績ではありませんか。平成 25 年と令和 3 年の量がその量ではないということです。

事務局：

そうです。基準と書いているところが基本は過去の実績というか、市の状況が書かれています。それから 10 年後にここまで持ってくることを示したのが目標です。

委員：

基準という表現が誤解を生むと思います。少なくとも私は誤解しました。現状というか実績という理解です。先ほど、3 つ並べてくださいと申し上げましたが、今がどれだけのレベルなのか基準と書いてあるところの値であればそれでいいと思いましたが、表記として基準より実績や現状のほうが分かりやすいと思いました。修正については、表の見出しだけ直してもらってもいいと思います。

事務局：

適切な単語や文言をもう 1 回考えます。ありがとうございます。

部会長：

お願いします。他はどうですか。既に概要版で意見が出ていますが、例えば冒頭に前回の意見への対応を説明していただきましたが、こちらについてはまだあまり意見をいただけていません。おおよそ対応いただいた内容でいいですか。

委員：

概要版の指標の目標 6 で、環境教育プログラムの実施校数の項目です。実はわれわれは全校実施を目指していました。3 年前に今の市長が当時の教育長だったときに会って、教育委員会として全校実施について何か働き掛けをしてもらえないかというお願いをしました。そのときは京都市がそのような形になっているという前提で話をしましたが、松本市長からは教育委員会から下ろすと、学校からの反発もあるので、全校実施に向けてさまざまな努力をしてくださいという言葉にとどまりました。現実には令和 3 年は 20 校となっていますが、令和 5 年度は本日時点で 22 校に進めています。今年は 32 校まで達成は可能です。そ

の中でこの4月、5月に各学校の校長・教頭先生にいろいろとヒアリングをしました。その際に、違う環境教育プログラムを実施しているので、市が進めている環境教育プログラムを行わずに、学校としてはそれを実施したいというところが2校ありました。そのときにわれわれとしては、この授業を行っていただくというお願いではなくて、そのような違うプログラムも行っている場合には、学校の取組として尊重し、市のプログラムを無理やり進める必要はなくなる気がします。

そのあたりについて、このプログラムを行わなければ実施校数として数えることができないという言い方をすると、本当に対立のような状況が起きます。具体的に申し上げますと、その学校の教頭先生が別のNPOに属されていて、そこによく似た環境プログラムがあるのでそれを実施するという言い方でした。その点で、市がつくっているプログラムを実施しないと全校実施にはならないという言い方になると、とても壁が高いと思っています。この辺りはもう少し柔軟な表現にさせていただいて、実質的に全校が環境教育に取り組んでいる形にしてもらえるとありがたいです。以上です。

部会長：

実態を把握する方法があるのかも含めて、どうですか。

事務局：

環境教育はどこの学校でも何らかのことはしていると思います。どのプログラムをカウントするかは線引きをすることについて、実際は難しいというのが一つあります。プログラム自体は環境創造課としても、このようなことを児童に伝えていきたいということでプログラムを作っています。そのため、こちらの伝えたいことがしっかりと学校に伝わっていることをカウントすればいいと思っており、今はこれを挙げています。ただし、他の学校が個別に行っている取組自体も、教育部局に照会を行えば情報を集めることはできると思います。プログラムの実施校は指標で増減を追っていきつつ、現状把握として、各学校で行っていることを把握することは可能だと思います。

委員：

ありがとうございます。概要版だけを見ると、指標名の冒頭の「尼崎」の文字を取るだけで把握できるならば、それで済む気もします。

事務局：

環境基本計画や環境部局として伝えたいことについて、伝えられているかを把握できればと考えております。

部会長：

はい。ご指摘のように、環境教育などとして他のものも啓発するように変えていくということだと思います。

1点あります。いまさらですが、だいぶ前のことを思い出してしまいました。確か最初のほうの部会のことです。年1回、1学年だけで行って終わりということがありました。3年生で行うと、他の学年ではしないことも多くて、指標として校数のカウントだけでは、1回行くと1校でできたということになります。例えば実施学年の延べ数を把握することについて少し意見があったと思いますが、そこまで把握は難しいですか。継続した環境教育や、段階に応じた環境学習という視点だと思います。

事務局：

把握についてです。クラスの話を見ると、何回行ったのかという話になってくると思いますが、数を追う指標の話になりがちで相反するところがあります。確かに全校で行うと、行っていないクラスがあるのかという話になるかもしれませんが、まずは全校で広く実施していることを把握する、それを目標に進める方法で事務局は考えています。

部会長：

少なくとも指標としてはこの辺りでとどめておいて、5年後にどこまでできているかの参考指標として、いろいろなデータを把握します。そのようなことも進めることを理解しました。

部会の回数もだいぶ重ねてきたので、皆さんの意見は各回で反映されつつあります。あとほどのようにコンパクトにまとめるかを市長に言われているので、環境創造課はその辺りで悩みながら進めています。本日、皆さんからいただいた意見を資料編に回すことも含めて、新しい用語などへの理解を促していくとも言われています。

ちなみに資料編は多めになってもいいですか。今回も資料編は本編よりもだいぶページ数が多くなっている感じがします。

事務局：

資料編自体は、制約などは設けておりませんので、資料編が増える分には特に問題ないと思います。

部会長：

次のご意見をお願いします。

委員：

資料編は多くなってもいいという話であれば、資料編にある「1 尼崎市の概況」の(3)の自然的条件について、今のところ大阪と神戸の平均気温の変化が載っていますが、あまり

しっくりときません。最近の猛暑のことを考えると、例えば猛暑日がどのように増えているかのほうが、よりインパクトもあって分かりやすいかもしれません。それを言いますと、豪雨の日数など他にもいろいろと考えてしまいます。確かに 1960 年から約 60 年間で平均気温は 1 度ぐらい上がっていることは見て取ることができますが、あまりしっくりときません。

事務局：

猛暑日や熱帯夜の数が増えていることはデータで把握しているので、その辺りも記載したいと思います。

部会長：

お願いします。他はいいですか。資料編に加えることはたくさん出てきそうです。直接本編に関連するようなところは押さえていると思います。

よろしいですか。今回の手続きとして、皆さまはもう一度、総会でも意見を述べる機会がありますが、パブリックコメント直前のことです。議論も重ねてきたので、根本的なことはないと感じます。パブリックコメントをわれわれの意見で変えることはありませんか。

事務局：

基本的にはまた 12 月ぐらいです。パブリックコメントで多くの意見が出て、計画の中身自体を大きく変える場合は、一度確認してもらおう場を設けると思います。軽微な修正であればメールなどで変更点を報告する予定としています。

部会長：

あくまでもパブリックコメントでいただいた市民の意見を反映するだけの手続きなので、これから新たなものではなくて、市民への対応が適切かどうかを確認させていただくことを残すのみです。資料 1 について、市民に凶る内容としてはいいですか。概要版は総会後のパブリックコメントに対応した資料としてあげますか。

委員：

確認です。資料に用語の説明が載ることがよくあります。今回は中にコラムのような形で入れてもらっているので、既に必要ないという判断ですか。

部会長：

本日の意見では、本編の途中にコラムのような形で用語集は入っていませんが、概要版にはあるので本編にもキーワード集を入れてはどうかという意見がありました。

委員：

分かりました。

部会長：

これは分量が多くなる場所ですが、資料編は多くなってもいいということでした。最も気になる場所なので、ぜひとも入れていただきたいです。

委員：

はい。出ていた議論でした。申し訳ありませんでした。

部会長：

他はどうですか。分かりやすくする観点からでも結構です。いいですか。

委員：

とてもよくまとめてもらっていると思います。あとは部会や総会の意見をすぐに反映してくれています。これはいつも思うことですが、尼崎の事務局がとても有能だと思っています。上からの失礼な言い方ですが、今、部会長が言われていたので、特にお礼を申し上げたいと思いました。

部会長：

ありがとうございます。全く同感です。

いいですか。時間が少し早めですが、これまでの議論を重ねてきた結果なので、今回の議題である尼崎市環境基本計画については終了したいと思います。ありがとうございました。事務局、いいですか。これで本日の審議は終わりたいと思います。先ほど説明したとおり、本日で総会への中間答申、そして市民の方々へのパブリックコメントを行う前の部会としては最後です。これまで非常に活発な議論、丁寧な議論を重ねていただき厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。今回の部会で出た意見について、私から事務局や委員に相談したいことがあるかもしれませんが、事務局に一任でまとめてもらいたいと思います。

事務局から何か補足説明などはありますか。

事務局：

環境部長です。部会長からも話していただきましたが、本当に長い期間にわたり活発な議論をいただき、本当にありがとうございました。部会は今回で終わりですが、今後の予定についてです。令和5年度第1回総会を8月2日に開催する予定です。この総会で中間答申をしていただいた後、パブリックコメントを実施していきます。総会の資料については、事務局から審議会の1週間前に、既に2週間しかありませんが、来週をめどに送付いたしま

す。ただし、先ほど部会長から言っていただきましたが、専門的事項については、この1週間で各委員の先生がたにも個別に伺うこともあると思います。その際にご協力をお願いします。本日はありがとうございました。

部会長：

ありがとうございました。これをもって本日の尼崎市環境基本計画改定部会を終了します。ありがとうございました。

一同：

ありがとうございました。

以 上